

網走では5月に入ってから22日夜～23日朝にかけて雪やみぞれが降るなど寒い日もありましたが、先週末からは気温の高い日が続いています。特に、5月29日にはオホーツクの各地で真夏日となり、網走では最高気温が32.7℃まで上昇し、92年振りに5月の最高気温を更新しました。そのような中、オホーツク沿岸の地まきホタテガイ漁場では春先から始まった稚貝放流もほぼ終わり、本操業に入っています。また、オホーツク管内の西部地区では来年の放流用種苗を採集するための採苗器の投入が始まっています。

▼さて、網走水試では昨日（6月2日）に今年の「オホーツク海外海放流ホタテガイ貝柱歩留不良予報」をホームページで公表しました。この予報は4、5月の地まきホタテガイ漁場におけるホタテガイの成長と漁場環境のモニタリングデータを基に、6月以降にオホーツク管内で漁獲される地まきホタテガイの貝柱歩留不良（歩留12%未満）が発生するリスクを予測するものです。昨年の予報は歩留不良となる可能性レベルが「1（短期・長期的にも歩留不良の心配なし）」であり、実際の貝柱歩留も漁期終盤まで例年に無く高い値で推移しました。しかし、今年の予報は「5」となり、「長期（6～10月）にわたり広域的に歩留不良となるリスクが高い」と予測されます。なお、「同予報」の詳細は下記のURLをご覧ください。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/cont/abashiri/section/zoushoku/mf7eo1000000m2y.html>

▼また、気象庁は5月12日にエルニーニョ監視速報を発表し、「今年の夏には5年ぶりにエルニーニョ現象が発生し、秋にかけて続く可能性が高い。」としています。「エルニーニョ」は、太平洋赤道域の日付変更線付近から南米のペルー沿岸にかけての広い海域で海面水温が平年に比べて高くなり、その状態が約1年程度続く現象で、日本の天候にも大きな影響を与えることがわかっています。エルニーニョ発生時の北日本の気候の特徴は、夏（6～8月）の平均気温が低く、降水量が多く、日照時間は少ない傾向があり、また、秋（9～11月）は平均気温が高く、降水量及び日照時間が多い傾向があります。今後、「エルニーニョ」による特異的な気候がオホーツク海の漁場環境、ひいては地まきホタテガイの生育に影響を与える可能性もあり、注意深く見ていく必要があります。

▼一方、ホタテガイの生育状況は、貝柱を原料とする加工製品の製造や品質にも大きな影響を与えます。昨年の特異的な貝柱性状（高成長＝貝柱サイズの大型化、高グリコーゲン含量）は、乾貝柱製造での乾燥効率の低下や製品の極端な光沢などを引き起こしました。網走水試加工利用部では昨年の事例も含め、原貝性状と乾貝柱の乾燥効率や規格外品（砕けや亀裂）の発生率、製品の色・つや等の関係について種々のデータを蓄積しています。これらのデータは、その都度、乾貝柱の製造・保管に係わる留意点などとともに説明会や報告書で関係者の皆さんにお知らせするほか、その一部を取り纏めて網走水試のホームページ（加工利用部の「研究成果の紹介」）にも掲載しております。原貝性状に合わせた乾貝柱の製造工程や製品保管の順応的な管理などにご活用下さい。

（ 網走水試 野俣 ）